

図書館システム機能要件

機能要件回答について対応方法欄に以下の基準に従い回答のこと。

提案時標準機能：◎

稼働までに提供：○

カスタマイズ提供：△

対応不可：×

※カスタマイズ内容は、記載内容が細かい場合は別添資料としカスタマイズ内容欄とは別に提出すること。

※カスタマイズ費用は、明細毎に金額（単位は円、税抜き）を記載のこと。

分類	No.	要求機能	対応方法	カスタマイズ内容	カスタマイズ費用
基本仕様					
インフラ	1	サーバOSは信頼性・拡張性の高いオープンソースOS(Linux)、またはWindowsServer2016R2(64bit)以降であること。			
	2	クライアントOSはWindows11以降であること。			
	3	利用者公開システムはiOS/Androidに対応したシステムであること。			
セキュリティ	4	図書システムの各業務は最新のMicrosoft Edge（ただし、IEモードも可）またはGoogleChrome上で動作が可能であること。			
	5	図書館システムは、セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン（applet）やクライアントで動作する仕組み（JWS）などではないこと。			
	6	図書館システムは、Microsoft Edge(IEモード)またはGoogleChromeのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。			
	7	図書館システムは、セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。			
	8	オペレータID／パスワードによるセキュリティー管理ができること。また、オペレータID毎に業務メニューの設定ができること。			
	9	オペレータIDのパスワードは桁数制限・文字種制限に対応していること。また、ログイン失敗時、ロックアウトが可能なこと。			
	10	特権ID（管理者オペレータID）は一般オペレータIDとは別に離席監視の設定をすることで、自動ログアウトができること。			
	11	ログイン時、及び、貸出／返却／予約や、利用者登録／検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。			
	12	以下のアクセス情報が保存できること。 (アクセス日／時刻、アクセス館／IPアドレス／オペレータID、アクセスした業務、アクセスされた利用者番号)			
	13	特定の利用者情報を扱う帳票印刷やデータ出力時に、パスワード認証(入力チェック)ができること。			
	14	利用者及びオペレータIDのパスワードは、ユーザごとに異なった文字列をソルトとして付与し、十分な暗号化強度を保持していること。			
	15	利用者及びオペレータのログイン時に複数の異なる認証要件を要求することにより、セキュリティレベルを高めることができること。(多要素認証対応)			
	16	多要素認証機能は、利用者及びオペレータ単位で利用可否を設定できること。			
	17	多要素認証で使用する認証情報は、利用者およびオペレータが所有している複数デバイスに対して登録可能なこと。			
言語	18	多言語(UTF-8)を扱えるシステムであること。			
操作性	19	処理選択・コード値選択等がマウスおよびファンクションキーで操作できること。キーボード操作も可能で各入力項目間の移動もTABキー・矢印キーで可能であること(矢印キーは上下矢印による移動も可能であること)。			
	20	入力項目のカーソル位置が一目で分かるように色等による強調表示ができること。			
	21	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのかが一目で分かるように注意表示による強調表示ができること。			
	22	カレンダー上にて図書館の休館日を確認できること。			
	23	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。			
	24	各種確認画面でのYes/No選択を、バーコード走査でできること。			
	25	各関連業務内の処理画面(窓口業務内の貸出、返却等)の個々の展開はホーム画面に戻らなくてもできること。			
	26	業務画面は、画面サイズを任意に変更可能なこと。			
	27	業務画面で複数ウィンドウ処理ができること(例：複数業務の起動を行い資料登録途中に入力を中断し、貸出処理を行い、その後中断していた資料登録を継続可能)。 ※リライトカードリーダーライタやIC機器等の外部機器接続端末では単画面運用。			
	28	1画面内でタブ切替えにより複数の情報を表示できること(例：貸出画面で貸出状況、予約状況、利用者通知が切替え表示可能)。また、各タブに件数を表示できること。			
	29	表示中画面から全ての他画面へ切り替えが可能なこと（例：貸出⇒書誌登録）			
	30	各業務画面から、オペレータの切り替えが可能なこと。			
	31	業務端末をシンクライアントで運用する場合に、オペレータIDで起動環境の指定が可能なこと。			
	32	バッチ処理に必要なインプットファイルをドラッグアンドドロップの簡単操作で指定できること。			
保守性	33	停電・瞬電時のバックアップ機能があること(無停電電源装置等)。			
	34	図書システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能でありクライアント毎の入れ替えは不要であること。			
	35	一台の端末からシステム共通の設定変更が行えること。			
拡張性	36	一台の端末から各クライアントIDの設定変更が行えること。			
	37	図書館システムは、オプションなどを追加することによりリライトカード、IC機器などの外部接続に対応できること。			
その他	38	図書館業務メニューから、他関連Webサイト(県立図書館等)を表示できること。また、Webサイトのリンクは任意に設定できること。			
	39	職員向けの「おしらせ・イベント情報」表示ができること。「おしらせ・イベント情報」は任意、かつ、複数の設定、表示が可能であること。			
	40	業務ホーム画面に「当日の利用状況」表示ができること。			
	41	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。			
	42	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。			
	43	利用者コードと資料コードのバーコード走査のみで処理が可能なこと。			
	44	バーコード走査により、「貸出確定」「貸出画面／返却画面切替」ができること。			
	45	利用者カードを忘れた利用者の場合、貸出画面内で利用者検索し利用者特定～貸出処理が可能なこと。			
	46	利用者カードを読み込んだ利用者について、詳細情報表示や登録内容の更新が可能なこと。			
	47	利用者の有効期限が迫っている場合、貸出画面で通知・更新可能なこと。			
	48	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行できること。			
	49	館毎かつ利用者資格毎に貸出規則（貸出日数・延期日数・延期回数・督促警告回数・貸出冊数・合計貸出冊数）設定ができること。さらに、貸出日数・延期日数・貸出冊数は資料種別毎にも設定できること。主な貸出規則毎の現在貸出数が表示できること。			
	50	延滞利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること（確認せず貸出させないこともできること）。			
	51	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。(確認せず貸出させないこともできること)			
	52	プライバシー保護のため書名の表示・非表示を予め設定できること。非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。			
	53	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。			
	54	未登録の利用者や資料でも登録することなく、すぐに貸出できること。後から登録し貸出情報と紐づけできること。			
	55	貸出冊数オーバー・期限切れ利用者・督促利用者・予約有り利用者・無効利用者・コメント有り等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。			
	56	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・持禁資料・仮登録資料・他館資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。			
	57	各種チェックがかかった時、条件により、操作員の判断で続行するか中止するかを選択できること。			
	58	相互貸借資料を貸し出す際、利用者の返却予定日と相互貸借の返還期限日を比較し、返還期限日を超過する場合は貸出を行うかどうかを判断できること(確認せず貸出させないこともできること)。			
	59	貸出画面上で、利用者の現在貸出中・予約中資料一覧を表示できること(10件以上／画面)。			
	60	貸出中(状況)一覧画面で資料状態(「予約あり」や「延滞」等)の色分け表示ができること。また、表示文字色と背景色の変更を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。			
	61	貸出中の資料を選択指定することで貸出期間の延期ができること。			

	62	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。			
	63	貸出中資料の資料コードを再走査することで継続貸出ができること。			
	64	休館日設定により、返却予定日をカレンダー管理（休館日を避ける）し、また貸出画面での随時変更もできること。			
	65	貸出を行うと、利用者氏名、貸出本、返却予定日、貸出中本、予約待人数が記入された貸出情報が印刷され、利用者に渡すことができる機能を標準で有すること。自由なコメントも随時修正し、印刷できること。			
	66	貸出票はページプリンタ・レシートプリンタに対応し、画面から出力先を随時切り替え可能であること。			
	67	複数の課題図書等の特定資料に予約をしても、その内1冊貸出すと他の特定の資料の予約も消し込みができること。			
	68	その日1日の館毎の貸出冊数、貸出人数の概数を画面に表示できること。			
	69	貸出資料一覧表示時、資料識別子(図書・雑誌・AV等)が表示され、何を何点借りているか表示できること。			
	70	未返却資料を貸出すと、今までの貸出利用者が確認でき、同時にその自動返却処理が行われること。			
	71	貸出処理完了前であれば、今貸出した資料の取消ができること。また、取消し時は統計データに反映されないこと。			
	72	貸出画面から予約の取消ができること。			
	73	貸出画面から紛失処理ができ、督促の対象から外すことができること。			
	74	貸出画面から、紛失等による弁償処理が行え、紛失届の印刷ができること。			
	75	返却処理漏れなどによりシステム上は貸出中(未返却資料)扱いだが、利用者からは返却済みとの申し出があった資料について、一時的に仮返却資料として貸出中資料から除外できること。また、督促対象からも除外できること。			
	76	貸出画面から、利用者の仮返却管理中の資料明細を確認できること。			
	77	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除して貸出すこともできること。			
	78	予約していた資料を貸出すと、予約データは消去されること。また、家族が予約した資料を貸出しても、予約データの消去ができること。			
	79	貸出中資料の返却予定日を変更できること			
	80	貸出状況一覧で、貸出処理館分の資料のみ表示と全館分の資料の表示ができること。また、資料詳細画面へ遷移し、資料の最終返却者が確認できること。			
	81	予約資料一覧からレシート印刷ができること。			
	82	予約資料一覧で、予約受取館が確認できること。確保資料は確保館が確認できること。			
	83	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報や予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。			
	84	貸出完了せずに離席した時、一定時間経過後、貸出完了と利用者情報の画面消去が自動でできること。			
	85	貸出状況一覧、予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。			
	86	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。			
	87	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。			
	88	貸出中資料を読書シールに印刷できること。			
返却	89	返却資料のバーコード走査だけで返却が完了できること。			
	90	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。			
	91	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。			
	92	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行ができること。			
	93	書名の表示・非表示を予め設定できること。(プライバシー保護のため)。また、非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。			
	94	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。また、非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。			
	95	返却画面から、利用者の仮返却管理の中資料明細を確認できること。			
	96	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。			
	97	資料についての日本語コメント(付録あり、汚れあり等)通知ができること。			
	98	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。			
	99	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・仮登録資料・未貸出・団体利用者貸出資料・BM貸出資料・相互貸借資料等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。			
	100	無効(不明・紛失)となっている資料の返却を行うと、設定により、自動的に無効を解除することもできること。			
	101	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除することもできること。			
	102	新刊コーナの資料のバーコードを走査した時、自動で本来の配架場所に変更できること。			
	103	特定場所の資料バーコードを走査した時、自動で設定した場所に変更できること。			
	104	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。			
	105	返却資料のバーコード走査後、貸出画面への展開は次に貸出を行う利用者カードを走査することにより遷移できること。また、バーコードリーダだけで、「貸出⇔返却画面切替え」「貸出・返却確定」ができること。			
	106	予約されていた資料が返却されると、予約対象利用者の情報を自動的に印刷できること。（印刷可否の設定ができること）。プリンタはレシートプリンタにも対応できること。			
	107	希望者には返却証明レシートの印刷ができること。			
	108	ブックポストへの大量の返却本を連続で返却する画面を用意していること。			
	109	用途に合わせて下記3種類の返却モードが用意されていること。また処理場面に応じてワンタッチでモード切替が可能なこと。 ・通常返却(開館中利用者と対面し返却する場合のモードで未返却資料をタブ切替ですぐに表示できること) ・ポスト返却(ブックポストへの大量返却時等、返却利用者チェックを行わず連続で返却が行え、返却資料が一覧画面に蓄積できること) ・履歴参照返却(通常返却の機能に加え、ポスト返却のように返却資料が一覧画面に蓄積できること)			
	110	返却画面で貸出延期ができること。			
	111	貸出延期処理時、貸出数をカウントする／しないが設定で選択できること。			
	112	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。			
	113	基本的にプライバシー保護のため返却完了時、貸出データは消去されること。ただし、設定によって当日の返却履歴を保存し、返却完了後でも管理上返却した資料を誰が借りていたか確認することもできること。 返却履歴を保存する設定の場合は、ボタンで任意に履歴消去できること。また、業務メニュー終了時に自動消去もできること。			
	114	貸出資料一覧表示時、資料識別子(図書、雑誌、AV等)が表示され、何を何点借りているかの識別ができること。			
	115	その日1日の館毎の返却冊数、返却人数を画面に表示できること。(概数を表示ができること)			
	116	本籍館への配送、予約資料の配送管理ができること。			
	117	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。			
	118	返却画面表示のまま離席した時、一定時間経過後利用者状況の画面消去が自動でできること。			
	119	返却状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。			
	120	貸出状況一覧及び予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。			
	121	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。			
	122	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。			
	123	返却履歴は1日分の履歴を保持し、自端末のみ/自館端末分全て の表示切替が可能なこと。			
	124	タグ管理されている資料のバーコードを走査した時、操作員に通知できること。			
	125	タグ管理されている資料は、指定期間中は指定された館へ自動配送されること。			
督促	126	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。			
	127	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。			
	128	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により、督促ハガキの印刷ができること。その際、まず、該当利用者の一覧が画面に表示でき、ハガキ印刷をする利用者を任意に選択できること。また、設定で督促回数をカウントアップでき、貸出画面で確認できること。			
	129	未返却者一覧表示後、延滞資料の在架チェックを行うための帳票が出力できること。			
	130	返却予定日の範囲指定により、未返却者、未返却資料一覧の印刷ができること。			
利用者管理					
利用者検索	131	利用者氏名(カナ、日本語、全半角の混在が可能)、電話番号、利用者コード、利用者区分、住所コード、生年月日、E-mailアドレスからの検索ができること。電話番号はハイフン抜きでも検索でき、また市外局番なしでも検索できること。			
	132	利用者データ検索において生年月日、住所の郵便番号、登録館、無効理由で区分で絞込みができること。			

	133	利用者検索一覧では、利用者の利用者番号、利用者名、性別、利用者区分、電話番号、住所、生年月日、貸出数、予約数が確認できること。			
	134	登録利用者の一覧画面表示できること。また、印刷および、各種OAソフト(Excel等)で読み込み可能な形式(CSV形式)で出力できること。			
	135	登録利用者の一覧出力では、管理者権限による出力制御ができること。			
	136	利用者の詳細情報が表示できること。氏名、電話番号、生年月日、年齢、住所、最終利用日、最終督促日、督促累積回数、有効期限、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧等が確認できること。また、印刷もできること。			
	137	利用者の詳細表示は、簡易・詳細による切替が可能なこと。			
	138	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。			
	139	貸出資料の不明／紛失／弁償処理／仮返却ができること。			
	140	貸出資料の詳細情報が表示できること。（資料検索結果画面相当の情報）			
	141	予約している資料一覧では表示される情報全項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。			
	142	コメント入力機能連携にて利用者に通知したいコメント情報を登録できること（コメント数は無制限）。また、修正、削除もできること。			
	143	プライバシー保護のため利用者一覧及び詳細画面のままで離席した時、一定時間経過後、メニュー画面へ自動で戻ることができること。			
利用者登録	144	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。			
	145	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。			
	146	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができること。			
	147	利用者氏名は漢字を入れ、ワンタッチでの自動ヨミ振りができること。また、利用者氏名のヨミは漢字入力した通りに自動でヨミ振りもできること。			
	148	利用者カードの再発行ができること。その場合、貸出・予約情報は引き継がれること。			
	149	利用者氏名・住所等を全半角混在で登録できること。生年月日を西暦で登録することもできること。			
	150	住所ファイルを持ち、町丁コードにより住所登録ができること。また、本辞書は住所だけでなく、クラス名、部署名等、自由に使用できること。利用者登録時は町コード入力または、選択で住所、郵便番号（7桁対応）が自動的に入力できること。			
	151	住所コード数が多い時等の入力負荷軽減のため、住所コードを大分類（大字等）と小分類（小字等）とで２段階入力ができること。また、郵便番号・住所名などの直接入力によるフィルター機能を有すること。			
	152	利用者氏名ヨミ、電話番号、生年月日で二重登録利用者のチェックを自動的に行えること。			
	153	年齢は生年月日からシステムが判断し自動計算であること。年次処理等の処理は不要であること。			
	154	新規登録時、検索で未登録確認後、登録画面に検索条件を複写できること。			
	155	コード入力項目へ入力域が移動するとコンボボックスにコード一覧が表示され、マウスで選択入力できること。また、コード値をキーボードで直接入力もできること。			
	156	郵便番号や住所名略称での住所検索ができること。			
	157	貸出や返却でアラーム通知するコメント情報の追加、修正、削除ができること。また、1利用者につき設定できるコメント数は無制限とし、フリーワードの入力もできること。			
	158	利用者パスワードの保守権限をログインID毎に設定できること。			
	159	初期パスワードの自動発行時、パスワードの有効期限が設定できること。			
	160	パスワード通知方法の初期値を、新規登録時と修正時で別に設定できること。			
	161	利用者が自身の多要素認証情報を紛失した際、職員が認証情報をクリアし、利用者が認証情報を再登録できる状態に戻せること。			
利用者管理	162	有効期限や最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、無効区分、利用者資格区分等の情報を一括で更新できること。			
	163	生年月日や有効期限等の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。			
	164	任意の無効日付、無効区分を指定し、一括してデータ削除できること。あくまで、任意処理であり、年度末等に自動で削除されないこと。			
	165	利用者一括登録時、初期設定されたパスワードの有効期限が設定できること。			
	166	利用者情報特定後、利用者への督促処理ができること。			
資料検索・予約					
資料検索	167	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。			
	168	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。			
	169	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目・タグ名等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。			
	170	各種の可変長マークデータから漏れなく検索ができること。(マークデータの全てを検索対象可能とする)			
	171	AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。			
	172	10件までの検索結果が履歴管理され、後からその検索結果一覧を表示できること。 また、検索履歴からその時の検索条件を復元でき、条件を付加することでより詳細な検索ができること。			
	173	項目により、前方一致、完全一致および中間一致(分かち項目)、後方一致で認識し、検索ができること。			
	174	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角両方で指定して検索処理ができること。			
	175	うろ覚えのキーワードを過去に登録された文字の中から探し出し、入力する手助けができること。			
	176	検索項目を特定せず、キーワードのみの入力で検索できること。			
	177	キーワード検索では、複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。			
	178	特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料・発注中資料等の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。			
	179	検索結果から所蔵の状態(不明資料・除籍・貸出中等)の把握ができること。 また、複本に対応していること。（検索結果の表示形式を「書誌」or「所蔵」単位で切替できること）			
	180	検索結果は、利用可能／貸出中／貸出不可能／発注あり／除籍／相互貸借資料／未所蔵により色を分けて分かりやすく表示できること。			
	181	印刷のほか、CSVファイルで保存やエクセルファイルで保存も可能なこと。			
	182	検索中断件数を設定できること。また、設定によって最小入力文字数を任意に指定でき、検索実行時にチェックされ、操作員の判断により検索続行するか中止するかを選択できること。			
	183	検索処理中断ボタン操作でも中断可能なこと。			
	184	所蔵場所区分、請求記号等の所蔵（ローカル）項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。			
	185	対（グループ）となる書誌項目をグループ化して表示できること。			
	186	資料区分をグループ化し、二次検索条件として指定できること。（一般書と児童書を分けて検索する事が可能。）			
	187	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等）どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索できること。			
	188	上記の規則を任意設定できること。			
	189	洋書等の登録で英字、数字が全半角混在で入力した場合でも、全角、半角、全半角混在で入力した場合でも検索でき、検索結果は変わらないこと。			
	190	資料一覧画面では通常登録順（最新が上）だが、ワンタッチで書名順、著者名順、分類順等で整列（ソート）できること。また、その整列順は図書館で任意に設定でき、5パターン以上の設定ができること。			
	191	前項設定以外でも全一覧項目での並べ替えが可能なこと。（ヘッダーソートが可能なこと）			
	192	資料検索結果一覧の初期表示順の設定ができること。			
	193	資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号が確認できること。			
	194	資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約、発注へ展開できること。			
	195	検索項目として使用できる項目の任意設定ができること。図書・雑誌・ＡＶ等の種別毎に設定できること。			
	196	検索結果一覧として表示する項目の任意設定ができること。また、検索結果一覧は、項目の掛け合わせによる並び替えが可能なこと。			
	197	種別（図書・雑誌・ＡＶ等）の複数指定による横断検索ができること。			
	198	画面から典拠対象の追加・修正・削除ができること。また、外部人名典拠ファイルからの一括登録もできること。			
	199	本に印刷されているISBNバーコードの読取り検索ができること。			
	200	発注中等の蔵書していない(未所蔵)書誌のみデータの検索ができること。			
	201	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、検索値未入力で全タイトル検索ができること。			

	202	検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失／不明／弁償処理ができること。			
	203	検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。			
	204	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。(返却後の資料等に物がはさまっていた場合等の対応)プライバシーにも考慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。			
	205	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード（著者名等）で再検索ができること。			
	206	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。また、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。			
	207	検索結果より、書庫出納票（レシート）が印刷できること。			
	208	内容注記や一般注記のように、分かち書きされていない書誌事項の、文中の文言について検索できること。			
	209	資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。			
	210	利用状況一覧、予約状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。			
	211	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと。また、書誌情報の検索結果がダウンロード可能なこと			
	212	TRC-TOOLiサイトとの横断検索が可能なこと			
	213	TRC-TOOLiサイトから取得した情報から、書誌登録・選定・発注・相互貸借の連携が可能なこと			
予約	214	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。			
	215	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。			
	216	館毎かつ利用者資格毎に予約規則（予約有効日数・合計予約件数）設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・WebOPAC毎に設定ができること。			
	217	予約本の現在の状態(予約中、予約棚、配送中)の管理ができること。			
	218	各処理ボタンに割り当てられたバーコードの走査により、画面上の各種処理選択ができること。			
	219	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。 書誌予約：複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。 所蔵予約：複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定の所蔵が返却された時点でのみ予約通知ができること。			
	220	予約した時間で予約順位を決めること。また、予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入力日時は保持されること。			
	221	予約資料の提供予定日を表示できること			
	222	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。			
	223	相互貸借資料(借受資料及び貸出中資料)への予約をチェックし、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料に対する予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。			
	224	延滞利用者に対して、予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。			
	225	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。			
	226	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別(窓口予約、インターネット予約等)、利用者資格、資料種別(図書、雑誌等)毎の件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。			
	227	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。			
	228	予約入力の件数統計(予約区分：窓口、OPAC、WebOPACと資料種別ごと)が出力できること。			
	229	任意に予約取消ができること。			
	230	予約取消時、予約取消理由を登録できること。			
	231	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。			
	232	予約資料情報の一覧表が出力できること。			
	233	館を認識した検索機能と連動し、自館の本に限定、または全館の本へ拡張して予約をかけることができ、貸出・返却業務とも完全連係ができること。			
	234	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。			
	235	予約資料一覧画面から、レシート印刷ができること。			
	236	返却や、受入等により、利用可能となった利用者を抽出し、予約連絡一覧を表示できること。また、連絡済み／未連絡／不在の管理もできること。			
	237	予約確保日(予約棚日)で抽出し、予約連絡ハガキを印刷できること。			
	238	予約棚(予約資料の確保状態)を変更できること。			
	239	予約毎に受取希望日を指定できること。期限が過ぎた予約は自動的に取消するのではなく、操作員の判断で取消できること。			
	240	予約資料の詳細表示ができること。(検索相当の表示ができること)			
	241	複数の資料が全てそろった時に貸出可能とする、そろい待ち予約ができること。			
	242	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約ができること。			
	243	予約対象館を本籍館または現在館から選択できること。また、対象館をグループ館(グループ館：Aグループ館はA1館とA2館等)毎の予約ができること。(グループ館毎にグループ化されている館名の表示ができること。)			
	244	上下巻等の複数資料に予約を行い、資料が全てそろった時に貸出可能となるセット予約ができること。			
	245	予約利用者の受取希望館の選択ができること。また、BMIについてはステーションの選択ができること。			
	246	予約者の受取希望館に合わせて複数の分館を地域(グループ)毎にまとめて設定できること。予約時には予約対象館を複数個指定するのではなく、予約対象地域を指定するだけで対象館全てに指定ができること。			
	247	予約在架一覧は自館在架を優先に出力できること。			
	248	バーコードの走査だけで、予約確保の取消しが可能なこと。			
	249	予約画面でリクエスト用紙の印刷ができること。			
	250	連絡不要の予約を確保時、自動で連絡済み状態に更新できること。			
配送管理	251	予約配送および他館返却による配送管理ができること。誤って配送処理した場合、取消もできること。			
	252	自館から予約配送依頼した資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼取り消しもできること。			
	253	他館から予約配送依頼されている資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼拒否もできること。			
	254	一覧画面で配送状況(配送資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。また、一覧画面で配送依頼状況(配送依頼資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。			
	255	他館で利用可能な所蔵がある場合、利用可能館へ配送依頼票の出力ができること。			
館内OPAC					
利用者開放 端末(館内 OPAC 全般)	256	最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。			
	257	セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン (applet) やクライアントで動作する仕組み (JWS) などではないこと。また、クライアントに javaをインストールしなくても動作すること。			
	258	Microsoft Edge(IEモード)またはGoogleChromeのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。			
	259	画面はワイドディスプレイにも対応していること			
	260	書名、著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。			
	261	キーボードレス(タッチスクリーン)操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。			
	262	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。			
	263	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。			
	264	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等）どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索できること。			
	265	検索中断件数の設定ができること。			

	266	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。			
	267	検索結果詳細として表示する項目の任意設定ができること。			
	268	Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。			
	269	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。また、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。			
	270	詳細画面より、受け取り可能な予約受取館の表示ができること。			
	271	詳細画面から予約申込ができること。			
	272	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。			
	273	予約件数の制限がかかること。処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。			
	274	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。			
	275	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。			
	276	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。			
	277	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。			
	278	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者資格毎・利用者単位に初期値設定できること。			
	279	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。また、他館資料に貸出可能な資料がある状態でも予約した場合、資料所在館に予約依頼票を印刷できること。			
	280	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。また、予約完了時、利用者控えの出力ができること。			
	281	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。			
	282	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻れること。			
	283	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせ表示ができること。			
	284	OPAC各機能の利用回数統計が出力できること。			
	285	画面遷移をパンくずリストとして表示し、パンくず指定にて画面遷移できること。			
	286	館内OPAC背景画像の変更が可能なこと			
	287	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。			
	288	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。			
	289	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。			
	290	簡易読書通帳用として貸出シールの印刷が可能なこと。			
	291	テンプレートを選択して、デザインを変更する機能を有すること			
	292	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。			
	293	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。また、検索項目を指定するキーワード検索もできること。			
	294	キーワード検索にて、全館対象／自館限定／特定館(任意の複数館)限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。			
	295	ベスト予約一覧が表示できること。			
	296	検索結果一覧の印刷ができること。			
	297	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。			
	298	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。			
	299	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。			
	300	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。			
	301	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。			
	302	利用者カード番号とパスワードでログインできること。			
	303	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。			
	304	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。			
	305	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。			
	306	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。			
	307	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。			
	308	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。			
	309	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約が登録できること。			
	310	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込み及び予約の変更がができること。			
	311	貸出状況、予約状況の印刷ができること。			
	312	予約を取り消した資料の表示ができること。			
	313	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。			
利用者開放 端末(館内 OPAC 大 人向け)	314	全文検索ができること。			
	315	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版と9版の版数選択もできること。			
	316	著者名＝イケナミショウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。また、雑誌ジャンル(例：スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。			
	317	バストリーダー一覧が表示できること。バストリーダーは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。			
	318	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示できること。また、検索結果一覧を並び替えてできること。			
	319	検索結果一覧に条件を追加し、絞り込みできること。また、検索結果一覧が複数ページにわたる場合、移動先ページを指定して遷移できること。			
	320	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。			
	321	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。また、巻号一覧に条件を追加し、絞り込みできること。			
	322	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。			
	323	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。			
利用者開放 端末(館内 OPAC こ ども向け)	324	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。			
	325	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。			
	326	こども向け画面では、こども向けの資料(区分で制御すること)に限定した検索ができること。			
	327	著者名＝チョウシンタのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。			
	328	検索結果一覧は資料管理区分単位で表示ができること。			
	329	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。			
	330	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。			
	331	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。			
セルフ貸出 機能	332	専用機ではなく通常のパソコン端末で利用者自身が貸出・返却できること。			
	333	画面はワイドディスプレイにも対応していること			
	334	館内OPACと切替運用ができること。			
	335	貸出レシートの印刷ができること。			
	336	テンプレートを選択して、デザインを変更する機能を有すること			
資料管理業務					
図書管理	337	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)			
	338	複本のデータ管理ができること。			
	339	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。			

	340	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。			
	341	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。			
	342	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り分かちができること。			
	343	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。			
	344	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。			
	345	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。			
	346	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。			
	347	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。			
	348	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。			
	349	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。			
	350	TRC-Tマーク：抽出マーク、ローカルデータを項目のもれなく一括登録できること。また、次ファイルを一括登録できること。			
	351	TRCマーク：内容細目ファイル、学習件名ファイルを一括登録でき、検索に活用できること。内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。			
	352	TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。TOOLi検索の結果から、マーク情報を確認し、図書登録画面にマーク情報を直接ダウンロードできること。この時、内容細目もあれば同時にダウンロードできること。			
	353	書誌・所蔵登録時、指定されたTRCNoまたはISBNのマーク情報をダウンロードし、登録できること。			
	354	TRCのTOOLi Ver3.0に対応していること。			
	355	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。			
	356	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF制御ができること。			
雑誌管理	357	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル／巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル(タイトル書誌)は、雑誌コードによる呼出しができること。			
	358	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。			
	359	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生／分離にも対応できること。			
	360	タイトル一覧画面より巻号(バックナンバー)一覧画面を表示できること。			
	361	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。			
	362	最新巻号の登録時に、直前号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。また、直前号の巻号情報、およびローカル情報を初期表示できること。			
	363	巻号を「巻／号／通巻」で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号予測し初期表示できること。			
	364	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力が可能であること。			
	365	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。			
	366	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。			
	367	豊富なローカルデータを持てること。			
	368	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。			
	369	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。			
	370	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。			
	371	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列化する為の序数化の自動付与ができること。			
	372	雑誌のJANコードを読み取って受入ができること。			
	373	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。			
	374	内容記事入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。			
	375	TRC社の雑誌MARC/Tの取り込みができること。			
AV管理	376	曲名・演奏者・出演者等の各種情報を漏れなく可変長登録できること。			
	377	各種情報を可変長で登録し、検索できること。			
	378	複本のデータ管理ができること。			
	379	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。			
	380	著者名・シリーズ名・出版者名、タイトル等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力できること。			
	381	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては漢字入力した通りに自動でヨミ振りができること。			
	382	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。			
	383	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。			
	384	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。			
	385	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。			
	386	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。			
	387	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。			
	388	TRC-Tマーク：AVマークを項目のもれなく一括登録できること。			
	389	日販マーク：AVマーク(NHKマーク、ニッパンAVマーク、ニッパンCDマーク)を項目のもれなく一括登録できること。			
	390	大阪屋マーク：AVマーク(OPL-AVマーク(可変長、固定長))を項目のもれなく一括登録できること。			
	391	ジーサーチマーク：AVマーク(Gマーク)を項目のもれなく一括登録できること。			
	392	日本図書館協会マーク：AVマーク(日図協AVマーク)を項目のもれなく一括登録できること。			
	393	Toccataマーク：AVマーク(Toccataマーク)を項目のもれなく一括登録できること。			
	394	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。			
	395	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF/半角/制御ができること。			
	396	内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。			
蔵書管理	397	館コードにより分館の管理ができること。			
	398	持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。			
	399	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。			
	400	該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。			
	401	コード値(所蔵場所コード等)入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。			
	402	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。また、変更履歴の画面表示、およびバックアップをダウンロードし、変更内容の保存／復元ができること。			
	403	ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値の一括変更ができること。			
	404	区分値、貸出回数、最終貸出日等を抽出条件とし、所蔵場所コード等、各種ローカル項目の一括変更ができること。 例：公開配架資料で最終貸出日が特定日以前の資料を、書庫配架に変更する。			
	405	マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌(タイトル)情報とローカル情報がミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。			
	406	装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別な番号でバーコードを貼り替える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。			
	407	同一書誌がある場合など、特定書誌の所蔵、貸出、予約、リクエスト、相互貸借情報を別書誌に付け替えることができること。			
	408	複数タイトルの資料(主に雑誌)を製本(合本)することができること。一度製本したデータを元にばらすこともできること。検索で製本された元の資料情報も参照できること。			
	409	館内OPAC及びインターネット向けサービス(WebOPAC)で紹介する「おすすめの本」のバーコード指定を、オンライン登録(バーコード入力)/HHTからの一括登録のどちらでも可能なこと。			
	410	「おすすめの本」のバーコード指定資料は、一覧印刷/CSVファイル出力が可能なこと。			
	411	資料に付録の有無を登録することができること。			
	412	資料の除籍・削除処理時、廃棄予定日以前の場合にメッセージ表示が可能なこと。また、他に利用可能な複本が無い場合にメッセージ表示が可能なこと。			
	413	コーナー本や事情本などのタグを資料に登録し管理できること。			
	414	資料の除籍・削除処理時、タグ・レファレンス参考資料がある場合にメッセージ表示が可能なこと。			

蔵書点検	415	蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。			
	416	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。			
	417	ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。			
	418	蔵書のバーコードの未入力(点検もれ)の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力／累積し、最終的に不明資料を確認できること。			
	419	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。			
選書	420	一定(任意指定可)回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。			
	421	MarcNo/ISBN/資料コードをバーコード走査により、選書対象の資料を特定し選書ができること。			
	422	資料検索との連携により選書対象の資料を特定し選書作業ができること。			
	423	選書時は、選書対象の資料情報に加え、資料に紐づく発注数、複本数、予約数を確認できること。また、各件数の詳細は一覧にて確認ができること。また、分館を含めた選書状況を確認できること。			
	424	選書データの追加、修正、削除ができること。また、一度に複数館分の選書データをまとめて追加する機能を有すること。			
	425	TRCマーク：選書時にTRCへの注文情報の指定が可能であること。			
	426	大阪屋マーク：選書時に大阪屋への注文情報の指定が可能であること。			
	427	選書時にリクエスト情報の登録ができること。登録されたリクエスト情報は、発注処理後に対象の発注情報とリンクされること。			
	428	分館を含めた各館の選書状況を通覧して確認することができること。また、選書状況を確認後、一括で発注処理ができること。			
	429	同一書誌に対する二重発注のチェックができること。			
発注	430	新刊案内のバーコードを走査することにより発注できること。また、発注データを作成できること。			
	431	雑誌等の逐次刊行物を年単位で一括発注できること。発注時、指定した刊行頻度情報(月刊等の刊行頻度や発売日または曜日等の情報)より、年間受入回数分の発注明細が表示できること。また、発注明細毎に発行予定日が自動計算され表示できること。			
	432	発注の取消しができること。			
	433	発注時処理から予算の差し引き処理が自動で行われること。			
	434	発注中の本に対して予約できること。			
	435	予約が登録されている発注の取消し処理をする際、メッセージ表示が可能なこと。			
	436	発注資料のマーク番号を連続入力し、まとめて発注できること。			
	437	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。自館／全館の表示切り替えもできること。			
	438	発注画面で、予約状況一覧、発注状況一覧が表示できること。自館／全館の表示切り替えもできること。			
	439	発注処理の前に選定データ(選書)の作成が可能であり、選定結果を確認後、発注できること。選定入力には資料検索・TOOLi検索と連携できること。これにより、複数館から選定データを起こし、発注館で一括して選定データを確認し発注処理ができること。			
	440	TRCマーク：TRC発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。「週刊新刊全点案内」のバーコード（TRCNo）を走査し発注できること。TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。図書館システム画面上でTOOLiと直接通信し、TOOLi検索／ダウンロード／在庫照会／TOOLi発注／発注状況照会／月別注文状況／MARCデリバリィ処理を行うことができること。TOOLi発注用のデータ作成・送信ができること。また、見計らい・クイック発注にも対応できること。			
	441	日販マーク：日販発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。「ウィークリー出版情報」等のバーコード（NPLNo）を走査、またはISBN入力にて発注できること。			
	442	大阪屋マーク：大阪屋発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。OPLNo、またはISBN入力にて発注できること。			
受入	443	発注情報を参照しながら、受入処理ができること。			
	444	受入処理で予約本のチェックを行い、操作員に通知できること。予約棚確保もできること。			
	445	受入行為から予算の差し引き処理が自動的に行われること。また、各種抽出マークやローカルマークによる一括受入時にも予算の差し引き処理ができること。			
	446	雑誌等の年間一括発注(継続発注)本の受入で、該当する発行予定日の発注明細を指定して受入できること。ここで受入後、発注明細上では「受入済」と表示し、未受入／受入済の管理ができること。また、欠号や増刊の管理もできること。			
	447	TRC-Typeマーク：ローカル情報をマークデータより一括受入時に、対象の発注情報を参照できること。			
	448	大阪屋マーク：ローカル情報をマークデータより一括受入時に、対象の発注情報を参照できること。			
	449	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。			
	450	現物受入の際には館、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。			
	451	年度毎・月毎に予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。入力には各区分を細かく設定して行い、表示は各区分を細かく、または全体表示ができること。			
館外サービス					
BM(移動図書館)	452	ハンディーターミナルまたは、ノートブックパソコンによる移動図書館において、利用者への資料の貸出／返却サービスができること。			
	453	ノートブックタイプでは、本館情報の一部（資料・利用者データ等）を搭載し、各種情報提供・チェックを行い、本館パソコンと同じ画面での貸出・返却・予約・利用者検索・利用者登録・資料検索ができること。			
	454	長時間の停電などにより、カウンター用の端末機が使用できない場合でも、移動図書館用端末にて貸出／返却サービスができること。			
	455	300ステーション以上のBMステーションに対応できること。			
	456	ステーション毎の巡回予定日を管理できること。また、ステーション毎に巡回予定日を基準とした返却予定日を自動設定できること。			
	457	本館情報の一部(資料・利用者データ等)を搭載し運用する方式と本館情報を搭載しなくても窓口業務が可能な方式の選択ができること。			
	458	オンラインでのBM業務に対応できること。			
	459	電源事故や回線事故に備え、サーバが稼動していない状況でもカウンタ業務ができること。			
オフライン処理	460	事故からの回復後、上記で処理した内容の反映ができること。			
インターネットサービス					
WebOPAC	461	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザ端末から蔵書検索ができること。			
	462	最新の複数のブラウザ（ME、Chromeなど）に対応すること。			
	463	レスポンスビデザインに対応し、マルチデバイス（PC、タブレット、スマホ）において同等の機能と操作性を有すること。			
	464	総務省が提唱するアクセシビリティの基準においてA以上とすること。			
	465	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。			
	466	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等）どちらで入力しても検索可能であること。さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索可能であること。			
	467	検索中断件数の設定ができること。			
	468	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧が表示できること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているかー			
	469	操作ガイダンスは大人用(漢字混じり)、子供用(ひらがな)、英文の3種類に対応できること。			
	470	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせを表示できること。			
	471	各機能の利用回数統計が出力できること。			
	472	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。			
	473	検索語のみ入力の検索機能を各図書館の公開Webサイトへ掲載できること。			
	474	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できる。			
	475	検索項目を指定してのキーワード検索ができること。			
	476	全文検索ができること。			
	477	NDC分類一覧からの分類選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。			
	478	著者名＝イケナミショウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。			
	479	雑誌ジャンル(例：スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。			
	480	ベストリーダ一覧が表示できること。ベストリーダは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。			

	481	ベスト予約一覧が表示できること。		
	482	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。		
	483	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示すること。		
	484	各種一覧の表示をタイトル形式/一覧形式を選択して表示できること		
	485	検索結果一覧を並び替えること。		
	486	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。		
	487	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示されること。		
	488	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。		
	489	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。		
	490	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。		
	491	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。		
	492	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。		
	493	Googleブックスとの連携が、サイト毎の設定画面から簡単に設定できること。また、Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。		
	494	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定したリンク先の画面が表示できること。		
	495	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。また、詳細画面から予約申込ができること。		
	496	詳細画面より、受け取り可能な予約受取館の表示ができること。		
	497	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。		
	498	予約件数の制限がかかること、処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。		
	499	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。		
	500	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。		
	501	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。		
	502	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。		
	503	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者資格毎・利用者単位に初期値設定できること。		
	504	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。		
	505	予約申込時、申込内容の確認画面を表示すること。		
	506	複数の資料を一括で予約する場合、グループ予約・セット予約(巻揃え、優先順)が選択できること。		
	507	利用者カード番号とパスワードでログインできること。		
	508	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。		
	509	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示されること。		
	510	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数の表示ができること。		
	511	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込みができること。この場合、延長回数や予約により延長可否のチェックができること。		
	512	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。		
	513	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。		
	514	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。		
	515	予約中資料照会画面から、予約取消し申込みができること。また、予約を取り消した資料の表示ができること。		
	516	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。		
	517	メールアドレス変更では、変更確認URLをメール通知し、アクセスを行うことだけで変更完了できること。		
	518	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。		
	519	多要素認証機能の使用可否は、利用者の任意のタイミングで決定でき、使用する認証情報の追加／削除が可能なこと。		
	520	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。		
	521	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。		
	522	典拠を参照した詳細検索が可能であること。		
	523	簡易検索／詳細検索時、検索キーワードを途中まで入力するとキーワード候補が選択（サジェスト）できること。また、表示されるサジェストキーワードは書誌情報から自動作成されること。		
	524	検索結果一覧／詳細画面では、検索キーワードをハイライト表示できること。		
	525	検索結果をキーワードでグループ化して簡単に絞込み検索（ファセットナビゲーション）ができること。		
	526	予約を申し込みたい資料を、一時的に保存できること。（予約かご機能） また、保存した資料についてメモ／カテゴリを登録できること。		
	527	設定により、予約かごを経由せず予約もできること。		
	528	図書館のトップページに、SNS（X「旧Twitter」,Facebook等）で発信しているタイムラインなどを埋め込むことができること。		
	529	利用者がパスワードを忘れた場合であっても、図書館への問い合わせをせずに利用者自身がパスワードを更新できる機能を提供していること。		
	530	相互貸借館からの新刊本への予約は、一定期間受け付けないように制限できること。		
	531	詳細検索では、著者名を参照した検索が行えること。		
	532	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定してリンク先の画面が表示できること。		
	533	利用者バーコードを表示し、利用券として使用できること。		
SDIサービス	534	利用者自身がインターネット経由で自由に情報提供を受けたい内容(キーワード)を登録できること。		
	535	利用者が申し込む情報配信内容について、自動で配信できること。		
相互貸借				
相互貸借	536	借受本の簡易登録ができること。		
	537	利用者からのリクエストに応じて、他館への相互貸借資料の借受依頼ができること。借受依頼の際、書誌(タイトル)情報の簡易登録ができること。		
	538	借受依頼の際、相互貸申込書の印刷ができること。		
	539	借受依頼によって借りた資料が届いた際、先に登録した簡易書誌(タイトル)情報に簡易所蔵(ローカル)情報を登録と連動してリクエスト予約登録ができること。(リクエストした利用者に紐づけできること)		
	540	相互貸借資料をリクエストした利用者に貸出できること。		
	541	相互貸借資料を他館に返還する際、相互貸借借受資料一覧を印刷し、資料に添付して返還できること。		
	542	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードは、そのまま利用できること。また、自館で独自に新しくバーコードを付け替えることもできること。他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードをそのまま利用する場合、自館蔵書と同一バーコード番号の資料でも取扱できること。貸出／返却時に同一バーコードを検知し、職員判断で選択できること。		
	543	他館から依頼された相互貸借資料を貸出する際、相互貸借貸出表を印刷し、添付して送付できること。		
	544	どこの館からどの資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受館へ返却済か等の状態も表示可能であること。		
	545	借受資料を、借受館、書名タイトル、受入日、返還予定日、依頼日で検索できること。また、検索結果を印刷・CSVで出力できること。		
	546	年報(相互貸借館毎・月毎の貸出冊数、借受冊数、分類毎月毎の貸出冊数、借受冊数)や実績一覧(借受タイトル・貸出タイトル)が印刷できること。		
	547	Ufinity for PublicのILL連携機能に対し、貸出/返却時に連携可能なこと。		
レファレンスサービス				
レファレンス管理	548	レファレンス情報について、日付・内容・参考資料・調査経緯などの情報の登録ができること。		
	549	レファレンス情報に登録する項目について、追加・修正・削除ができること。		
	550	レファレンス情報で登録した内容を検索し、一覧表示、詳細表示できること。また、一覧・詳細の表示内容は任意に設定できること。		
	551	レファレンス検索を行う条件項目について、追加・修正・削除できること。		
	552	レファレンスの参考文献となる蔵書資料のバーコードを走査し、資料のタイトルを入力できること。また、検索時に参考文献書誌情報や参考URLを参照できること。		
	553	資料詳細から、レファレンス事例を参照できること。		
	554	NDL(国立国会図書館)向けにレファレンス情報をCSV出力することができること。		
	555	インターネットからの事例検索、調査申込ができること。また、メールでの回答送信ができること。		
ICタグ利用				
ICタグ対応	556	UHF帯ICタグの取扱いができること。		

	567	ICタグを貼付した資料の複数冊同時貸出、返却ができること。			
	568	ソフエル社のIC自動貸出システムと連携し、利用者自身で貸出ができること。			
	569	ブックデテクション機構と連携し、資料の不正持ち出しを防止できること。			
	570	ソフエル社のIC予約棚システムと連携が可能なこと			
AVブースサービス					
AVブース 管理	571	AVブースの利用予約ができること。			
	572	視聴覚資料の館内閲覧貸出処理から直接AVブースの予約登録画面に遷移し、連続して処理できること。また、返却時、AVブース予約終了時刻に関わらず、AVブース利用予約の削除ができること。			
	573	利用者カード及びAV資料により、ブースの利用者/利用時間が自動的に設定できること。			
	574	AVブースがすべて利用されている場合、AVブースの予約ができ、利用可能時刻の通知ができること。			
	575	AVブースの利用時間は、チャート形式表示が可能であること。			
	576	AVブース予約受付時に予約票の印刷ができること。			
	577	AVブースの利用状況/予約状況が画面で確認でき、統計情報としてCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。			
	578	AVブースの他、会議室・学習室といった施設予約が可能であること。			
	579	故障ブースは予約不可の制御ができること			
利用者サービス					
読書推進 サービス機 能	580	利用者向け読書推進支援として、以下のサービスをインターネットを通じて利用者に提供できること。 書評・レーティング(評価ポイント)サービス、ブックリスト(利用者自身の仮想本棚)サービス、図書館からのおすすめサービス。			
	581	読書推進サービスの対象は、当館蔵書資料だけではなく、同サービス利用の全国市町村図書館蔵書資料にも対応できること。			
	582	サービスサイトには個人を特定できる情報を格納せずに利用できること。			
	583	サービス利用時は、利用者コード/パスワードによる認証が必要なこと。			
	584	当館インターネット蔵書検索サイトで既に認証後にサービス利用時は、再認証が不要であること。(シングルサインオンに対応できること)			
	585	利用者による資料に対する書評登録ができること。同サービス利用の全国市町村図書館蔵書資料に対しても書評登録できること。			
	586	利用者による資料に対するレーティング(評価ポイント)登録ができること。同サービス利用の全国市町村図書館蔵書資料に対してもレーティング登録ができること。			
	587	当館インターネット蔵書検索で、当館蔵書資料の書評・レーティング情報が表示できること。			
	588	同サービス利用の全国市町村図書館蔵書資料の書評・レーティング資料が閲覧できること。			
	589	書評やレーティング情報の閲覧画面では、サービスと連携した資料の表紙画像も表示できること。			
	590	書評サービスにおいて、指定回数以上の違反報告があった場合(イタズラ目的の可能性がある場合)は、当館担当職員あてにメール通知ができること。			
	591	当館職員にて、不適切な書評情報の削除ができること。また、特定の利用者へのサービス利用制限(新規書評登録・ブックリストへの追加不可)ができること。			
	592	レーティング情報は、同サービス利用の他市町村図書館登録のレーティング情報と合わせた全体評価ポイントで表示できること。また、星印のマーク等による分かりやすい表示であること。			
	593	以下のインターネット蔵書検索各画面から簡単に書評・レーティング情報の登録・閲覧ができること。 検索結果一覧、検索結果詳細、貸出ランキング、予約ランキング、新着資料一覧、利用状況(貸出中/予約中資料情報)画面。			
	594	利用者の読書記録(当館貸出履歴情報)をインターネット上にブックリストとして閲覧できること。			
	595	利用者の予約記録(当館予約履歴情報)もブックリストとして閲覧できること。			
	596	読書記録・予約記録の取得、及び、閲覧については、利用者自身で同意することによりサービス可能であること。			
	597	当館インターネット蔵書検索結果から、利用者自身で「これから読みたい本」を読書状態(「読みたい」)を指定してブックリストに登録・閲覧できること。			
	598	検索結果より、当館貸出資料以外でも「読んでいる本」「読み終わった本」も読書状態(「読んでいる」／「読み終わった」)を指定してブックリストへ登録できること。			
	599	以下のインターネット蔵書検索各画面から簡単にブックリストへの登録ができること。 検索結果一覧、検索結果詳細、貸出ランキング、予約ランキング、新着資料一覧、利用状況(貸出中/予約中資料情報)画面。			
	600	読書状態(「読みたい」／「読んでいる」／「読み終わった」)は利用者自身で修正できること。また読み終わった日付も任意に登録できること。			
	601	ブックリストに登録されている情報は、利用者自身でインターネット公開・非公開を選択できること。また、利用者自身で削除できること。			
	602	ブックリストは利用者自身でカテゴリを設定し、分類できること。			
	603	ブックリストで設定したカテゴリにより、絞り込み検索、並べ替えができること。			
	604	ブックリストの資料明細を簡単な操作で任意に並べ替えができ、保存もできること。また、ブックリストで資料情報表示の際、その資料に対する利用者自身のレーティング(評価ポイント)と全国のレーティングと両方表示できること。			
	605	当館自体が書評・ブックリスト登録することで、当館おすすめ本としてインターネットに公開できること。			
	606	当館おすすめ本は複数登録・公開できること。また、カテゴリ(一般・児童等)毎に登録・公開ができること。			
	607	当館おすすめ本はカテゴリ毎に絞り込みができること。			
	608	同サービス利用の全国市町村図書館のおすすめ本も閲覧できること。			
	609	利用者自身のブックリストを公開するためのURLがあること。			
電子書籍連携					
電子書籍連 携	610	TRC TタイプMARCフォーマットにて提供されるTRC 電子書籍MARCを図書館システムで変換・取込ができること			
	611	資料詳細に電子図書館サービス (TRC-DL) のライセンス情報が表示できること			
	612	電子図書館サービス (TRC-DL) の貸出・予約情報を連携収集し、統計情報に反映できること。また、利用者毎の実績を帳票で確認できること			
	613	再交付・利用者統合による利用者コードの変更を、電子図書館サービス (TRC-DL) へ反映できること			
	614	利用者がWebOPACにログイン後、電子図書館サービス (TRC-DL) へログインを行う場合、ログイン済みの利用者IDで連携・遷移できること			
	615	利用者がWebOPACに未ログイン状態で電子図書館サービス (TRC-DL) のサイトにログイン処理を行った場合、WebOPACの利用者ID／パスワードでログインができること			
	616	利用者資格により特定の利用者以外は電子図書館サービス (TRC-DL) へのログイン連携を利用できないように設定できること			
	617	利用者はWebOPACで電子書籍サービス (TRC-DL) の貸出・予約情報が確認できること			
	618	資料詳細で、電子書籍サービス (TRC-DL) のサムネイル画像を取得・表示できること			
	619	電子図書館サービス (TRC-DL) で電子書籍の公開設定 (公開／非公開) が変更された場合、図書館システムへ連携がおこなえること			
	620	電子図書館サービス (TRC-DL) で電子書籍の自動返却、自動取置、自動貸出が発生した場合、図書館システムから連絡メールを通知できること			
帳票					
帳票印刷	621	統計資料はExcelと連係し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、Excelで2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。			
	622	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSVファイルは項目見出しつきで出力されること。			
	623	日本図書館協会調査票に対する項目が出力できること。			
	624	統計表(日報、月報、年報)について、ひとつの出力画面から帳票を出力できること。			
	625	キハラ3段、埼玉福祉会1段の背ラベルが印刷できること。また、出口で印字レイアウトの調整や独自用紙への印字も可能なこと。			
	626	特定の利用者資格の貸出、返却、予約を統計の集計から除外できること。			
	627	利用者一覧表			
	628	無効利用者一覧表			
	629	新着資料一覧表			
	630	無効資料一覧表			
帳票	631	未利用資料一覧表			
	632	雑誌タイトル一覧表			
	633	貸出資料一覧			
	634	予約資料一覧表			
	635	予約在架資料一覧表			

	636	予約解除資料一覧表			
	637	借受予約資料一覧表			
	638	発注一覧表			
	639	発注短冊			
	640	選定リスト			
	641	自動発注リスト			
	642	納入状況リスト			
	643	時間帯別利用統計			
	644	日別利用統計			
	645	月別利用統計			
	646	年齢－分類別貸出統計			
	647	年齢－地区別貸出統計			
	648	地区別資料区分別貸出統計			
	649	利用者資格別資料区分別利用統計			
	650	資料区分－ステーション別貸出統計			
	651	年齢－ステーション別貸出統計			
	652	年齢－ステーション別貸出人数統計			
	653	ベストリーダ			
	654	ベストリクエスト			
	655	年齢別毎ベストリーダ			
	656	雑誌タイトル毎ベストリーダ			
	657	分類別蔵書統計			
	658	分類別蔵書統計表(リアルタイム)			
	659	蔵書総括表			
	660	地区－年齢別登録者統計			
	661	蔵書集計表			
	662	登録者集計表			
	663	資料データリスト			
	664	利用者データリスト			
	665	貸借館別相互貸借統計			
	666	分類別相互貸借統計			
	667	公共図書館調査票			
	668	蔵書点検エラーリスト			
	669	不明候補資料一覧表			
	670	不明資料一覧表			
	671	除籍候補一覧表			
	672	資料バーコード一覧			
	673	利用者バーコード一覧			
	674	利用者カード			
	675	貸出レシート			
	676	督促葉書／未返却者一覧			
	677	予約連絡表			
	678	予約連絡一覧			
	679	おすすめ資料一覧			
	680	タグ一覧			
	681	利用者総括表			
	682	統計分類別所属別貸出統計表			
	683	曜日別年齢別利用人数統計表			
	684	統計分類別貸出実績表			
	685	統計分類別利用者資格別利用統計表			
	686	所蔵一覧			
	687	年齢・地区別実利用人数統計表			
	688	資料区分－ステーション別返却統計表			
	689	年齢－ステーション別返却統計表			
	690	年齢－ステーション別返却人数統計表			
	691	OPAC利用件数統計表（館内、Web、携帯毎）			
	692	曜日毎時間帯毎統計表（前年度比較）			
	693	典拠一覧表（人名、出版者、件名）			
	694	AVブース統計表			